

国指定史跡 谷口古墳



種別	国指定史跡
所在地	唐津市浜玉町谷口 Google Mapで表示
指定年月日	昭和16年（1941）12月13日

谷口古墳は、浜玉町谷口の城山（じょうやま：標高337m）から南西に延びた尾根の先端部に築かれた全長77m以上の前方後円墳です。後円部に砂岩製の長持形石棺を安置した東西2つの石室があり、前方部に舟形石棺が埋納されています。

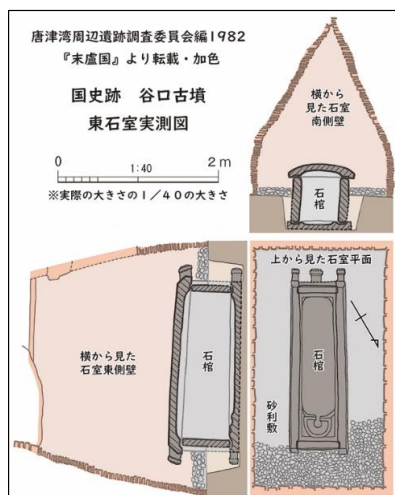
明治42年（1909）、地元住民により後円部の東西両石室が発掘され、銅鏡や碧玉製石釧（いしくしろ）、勾玉、管玉などの副葬品が発見されました。その後、西石室は長持形石棺を墳丘上に安置して埋め戻され、東石室は発見時のまま保存されています。

石室の規模は、西石室が3.16m×1.85m、東石室が2.95m×1.6mで、両室とも玄武岩の割石を使用し、側壁の中ほどから持ち送り状に積み上げられ、全体に赤色顔料が塗布されています。また、石室内に置かれた長持形石棺は、古墳の規模にしては豪華で、副葬品とともにこの時期の古墳を代表するものとして、全国から注目を集めました。

しかし、その後東石室側壁のゆがみが大きくなったため、本格的な保存修理工事を行い、現在の姿になっています。このとき同時に発掘調査も行っていて、その結果この古墳の石室は、前方部側に入口を持つ竪穴系横口式石室であることが判明し、朝鮮半島からの墓制の伝播とその変遷を知るうえで、非常に重要な古墳であることが分かりました。

また、出土した円筒埴輪片などから、同様の石室を持つ古墳の中で、現段階ではこの古墳が最も古いもの（4世紀後半頃造られたもの）であることが明確になりました。

出土品は、東京国立博物館に保管されていますが、浜玉公民館歴史資料室で、復元された石室と出土品のレプリカを見学することができます。



問い合わせ

生涯学習文化財課

〒847-0013 佐賀県唐津市南城内1番1号

大手口センタービル6階

電話番号：0955-72-9171